

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	3650180189
法人名	医療法人 敬老会
事業所名	グループホームフォレスト
所在地	徳島県徳島市八万町大野7-1 (電話) 088-669-2223

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 13 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤:13人、非常勤1人、常勤換算:1番街 6.96人 2番街 6.63人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り	
	2 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~45,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 13 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	10 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森岡病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの北側には園瀬川が流れ、オシドリやサギがいたり、南側は山に囲まれて竹やぐぬぎが手入れされている。ホームの周囲が日常生活の癒しの空間となっている。管理者や職員は、基本理念である「生きがいを見つけ、共に育む」を柱として、利用者一人ひとりの望む暮らしを大切に支援している。また、協力病院との連携のもと、利用者、家族、地域、馴染みの関係を重視した取り組みがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での課題とされていた「家族等への報告」は、「フォレスト便り」を月1回発行し、行事計画や実施した写真、利用者の近況を書いて郵送するなどして改善されている。また「同業者との交流を通じた向上」についても改善されている。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>自己評価の作成は全職員の情報や意見を集約するまでには至っていない。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は過去1年間に5回開催し、利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、管理者、職員が出席している。会議では自己評価や外部評価、行事の報告、避難訓練などを議題にした意見交換を行っている。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族の要望等は意見箱の設置や来訪時に直接伝えてもらうなどして把握している。また公的な窓口へも相談できる旨を「重要事項説明書」に明記している。出された要望等はミーティングで速やかに話し合っって対応し、記録している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>散歩の時に地域の人たちと挨拶を交わしたり、野菜を頂くなど顔馴染みの関係が築かれている。近隣の保育園の子ども達の訪問が毎月あり、地域の文化祭やバザー、秋祭り、カラオケ大会等にも積極的に参加し、相互の親交を温めあう関係づくりに努められている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、「生きがいを見つけ、共に育む」といった基本理念をつくり、玄関等に掲げて常に意識するようにしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和に加えて、日々のケア場面で確認し合うなど実践に向けた具体的な取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の秋祭りやカラオケ大会、バザー等に積極的に参加し、地元文化祭に作品を出展するなど交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。しかし、自己評価の作成は全職員の情報や意見を集約するまでには至っていない。	○	自己評価の作成は全職員の意見を聞くよう工夫をすることが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、管理者、職員が出席している。会議では自己評価や外部評価、行事の報告、避難訓練などを議題にした意見交換などを行っている。しかし、過去1年間の開催は5回となっている。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への報告書を持参して市担当者の助言をもらうなど、連携した関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「フォレスト便り」を月1回発行し、行事計画や利用者の生活の様子等の写真を掲載し、近況を書いて家族に送っている。小遣いを事業所で立て替えた場合は、後で精算して家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は意見箱の設置や来訪時に直接伝えてもらうなどして把握している。また公的な窓口へも相談できる旨を「重要事項説明書」に明記している。出された要望等はミーティングで速やかに話し合っ対応し、記録している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、やむを得ない離職などの場合には利用者への影響に配慮し、十分な説明が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画を立てて、実施している。研修資料はファイルに綴り、他の職員にも報告してその内容を共有している。資料には職員の確認印・サインもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国のグループホーム協会とグループホーム協会徳島県支部に加入して、勉強会等にも参加し、同業者との交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には必ず自宅を訪問して面接し、利用者や家族の悩み、不安、希望等を把握している。また事業所を見学してもらうなど、グループホームの雰囲気馴染めるよう柔軟に支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員はお互いに教え合い、協力し合いながら生活している。調理や洗濯物たたみ等、役割を楽しみながら協働している様子がみられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの意向が汲み取れるよう、個々に応じたコミュニケーションを図り、本人の意思決定を尊重して暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を聞き、医師の助言、職員の意見を総合して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しや本人の心身の状態に合わせた適切な介護計画を作成している。利用者や家族の意見を確認し、確認印をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、要望に応じて受診、リハビリ等の通院や自宅、墓参り等の外出を柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医や医療機関を受診できるよう支援している。医師とは常に連携を図るなど、利用者の状態に応じた適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、利用者や家族、医師などと繰り返し話し合い、方針の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として常に尊敬の念を込めて接し、丁寧な言葉かけを心がけている。個人情報の取り扱いについては「重要事項説明書」に明記し、入居契約時に利用者、家族に説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味の時間など一日の過ごし方は利用者の希望にそうように配慮し、ゆっくりとゆったりした時間が流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、栄養士が作成している。味付けや固さも利用者にとって食べやすい食事となっている。食事は利用者、職員が共に調理し、楽しい雰囲気です卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴はいつでも可能である。少人数用の入浴室、大浴室と使い分けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる事、やりたい事を把握し、カラオケや俳句、手芸、園芸を楽しめるよう支援している。調理を職員と共にしている利用者も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅への一時帰宅や墓参り、散歩など利用者の希望にそった外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。園庭の散歩も自由にできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により年に2回、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も実施し、近隣の協力も得られるように働きかけている。マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握をしている。栄養士も介護現場で支援に加わり、利用者の食事状況を見て献立の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると、2ユニットの中心に職員の部屋が扇状に広がり利用者の生活の様子が見渡せる構造である。建物の中心に中庭があり、もみじが2本植わっていて季節の移ろいを感じることができる。太陽の光を浴びられる所にソファを用意して、談笑したり食事もできる癒しの空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入口には、家庭と同じような表札がある。自宅から布団や毛布を持ち込んだり、俳句の先生に作品を清書してもらい飾っている利用者もいる。		